

2025 年 11 月 14 日

第 149 回全国大学国語教育学会・早稲田大会 最終案内

第 149 回全国大学国語教育学会早稲田大会実行委員会

二次案内(差し替え版)以降生じた、いくつかの変更、修正を反映しています。

1. 開催日 2025(令和 7)年 11 月 22 日(土)~11 月 23 日(日)

※公開講座は 11 月 8 日(土)にオンラインで開催済み

2. 会場 早稲田大学 早稲田キャンパス(〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1)

3. 日程

第 1 日 11 月 22 日(土)		第 2 日 11 月 23 日(日)	
8:45	受付	9:00	受付
9:30	自由研究発表	9:30	課題研究発表
12:20	昼食	12:00	昼食
13:00	理事会	12:30	若手研究交流企画
14:00	総会	13:40	自由研究発表 ラウンドテーブル
15:10	シンポジウム	16:30	
17:40			
18:30	懇親会		
20:30			

※公開講座は 11 月 8 日(土)
14:30~17:30 オンライン開催

4. プログラム

※自由研究発表・ラウンドテーブルのタイトル、発表者・コーディネーター・登壇者氏名、所属は原則として本人登録時の内容をそのまま転記しています。

【第 1 日 11 月 22 日(土) 午前の部】

◎ 自由研究発表 9:30~12:20 発表 20 分 質疑応答 10 分 接続時間 5 分

第 1 会場 司会: 上谷順三郎(鹿児島大学) 高木まさき((公財)教科書研究センター)
場所: 14 号館 4 階 401 教室

1-1 文学的文章における語り概念の整理に関する一考察

久田義純(岡崎市立男川小学校)

1-2 語りの深層構造から生まれる文学教材価値

—語りの深層構造とく了解不能の領域>、あまんきみこ『おにたのぼうし』を通して—

周非(都留文科大学)

1-3 「語り」に着目した文学教材の読みの可能性

—内海隆一郎「小さな手袋」に対する大学生の反応を元に—

辻尚実(高知大学)

1-4 『雪渡り』(宮沢賢治)における文学的イメージ体験の生成

高橋茉由(秋田大学)

1-5 奥田靖雄「文学教育における主観主義」について

—運動論的な側面からの考察—

花園悟(東京外国語大学)

第2会場 司会:野中潤(都留文科大学) 羽田潤(兵庫教育大学)

場所:14号館4階402教室

2-1 ICTを活用した「第2の教室」設置による新たな国語科学習モデルの開発

—大人のクラスメートと読む『たずねびと』—

内山公介(山口大学教育学部附属山口小学校)

2-2 国語科授業において生成 AI はどのように使われているか

—2022年からの諸実践の総括と展望—

谷頭和希(渋谷教育学園渋谷中・高等学校)

2-3 言語化の不自由さを共にすることができるか?

—生成 AI と対話する生徒—

宮城信(富山大学)

増田一暁(かえつ有明中・高等学校)

2-4 生成 AI を活用した教科教育法(国語)における成績付けシステム構築の教育実証研究

—自動採点と成績処理アプリの構築を通じたタキシノミー第6段階「創造」の実現—

池田修(京都橘大学)

2-5 マルチモーダル AI が拓く国語科教育の新地平

—テキスト・音声・画像・動画を統合した言語学習モデルの構築—

野中潤(都留文科大学)

第3会場 司会:藤森裕治(文教大学) 細川太輔(元東京学芸大学)

場所:14号館4階403教室

3-1 「読むこと」の探究的な学習におけるワザ(方略的知識)の獲得と深化

—長期的な視点から捉える生徒の学びの様相—

仙波歩(信州大学大学院・院生 駒ヶ根市立東中学校)

3-2 小学校国語科における論理的文章を「読むこと」の授業実践研究

—小学1・2年の教科書教材を中心に—

西山悦子(東京都台東区立田原小学校)

3-3 判断する力を育む読むことの学習

—ワークショップ型の学びにおける感性的な選択をもとに—

岡田博元(お茶の水女子大附属小学校)

3-4 作中人物への没入はどのように〈読み〉をかえるのか

—〈全員演者型ホット・シーティング〉での様相の質的分析—

遠藤正笛史(福島大学附属中学校)

佐藤佐敏(福島大学)

3-5 読むこと学習における実践共同体形成と評価の在り方

木村穂乃香(鳥取大学)

第4会場 司会:富安慎吾(島根大学) 守田庸一(三重大大学)

場所:14号館4階404教室

4-1 中学校国語科におけるペルセウス・アンドロメダ型神話の読み比べ

—『古事記』ヲロチ退治を中心に—

南信彦(市川中学校・高等学校)

4-2 往復書簡を通じて古典世界の語り手と対話する授業実践の可能性

森川浩輔(北海高等学校)

4-3 陸游『入蜀記』教材考

樋口敦士(狭山ヶ丘高等学校)

4-4 遊んで覚える古典文法

—品詞・活用・助動詞・敬語のカードゲーム開発と実践—

仲島ひとみ(武蔵野大学)

4-5 『竹取物語』の指導における絵画資料の活用

—「みどころキューブ」による高等学校での実践を通して—

宮本淳子（東京学芸大学）

奥泉香（東京学芸大学）

小森一輝（同志社大学大学院・院生）

篠遠早紀（長野県飯田高等学校）

阿部由美（東京学芸大学附属世田谷中学校）

第5会場 司会：府川源一郎（元横浜国立大学） 山元隆春（広島大学）

場所：14号館4階405教室

5-1 外から来た、記憶を継承する者

—「たずねびと」（朽木祥）の「第三世代戦争教材」としての意義—

西田真奈（早稲田大学大学院・院生）

5-2 戦争平和教材の採録史研究

田中芙美（神奈川県立城郷高等学校 早稲田大学大学院・院生）

5-3 戦争に関する文学表象をメタ的に考える実践

—文学の特徴と社会的な意味の探究を取り入れて—

高松美紀（東京学芸大学附属国際中等教育学校）

5-4 国語教育は「白いぼうし」をどう語ってきたか

—教材化とその変遷をめぐって—

宮田航平（東京都立産業技術高等専門学校）

5-5 「言語感覚」に類する用語の系譜

笹平真之介（盛岡大学）

第6会場 司会：坂口京子（静岡大学） 児玉忠（宮城教育大学）

場所：14号館4階407教室

6-1 こどもたちがこどもたちのことばの学びをひらくために

—坪内逍遙の児童劇思想の再生と接続—

梁梨花（慶應義塾大学大学院・院生）

6-2 小学校国語科における伝統的な言語文化の学習指導に関する一考察

竹内孝彦（元千葉大学修士課程）

6-3 調べる綴り方の衰退要因に対する一考察

—生命主義的綴り方との関連に着目して—

赤荻千恵子(早稲田大学非常勤講師)

- 6-4 国民科国語・教師用書における語法指導項目
—『ヨミカタ(よみかた)』『初等科国語』に関して—

松崎史周(国士舘大学)

- 6-5 大正自由教育における子ども文庫と家庭文庫

稲井達也(大正大学)

第7会場 司会:河野順子(元白百合女子大学) 中村和弘(東京学芸大学)

場所:7号館2階207教室

- 7-1 高校生は文学の話し合いのどのような局面で楽しさを覚えるのか
—村上春樹『鏡』を用いた実践の分析—

河村優作(筑波大学大学院・院生)

- 7-2 わたしとことばとの関係をほぐす
—教員を目指す学生との「教室方言」シナリオワークショップ—

永井ほのり(広島大学大学院・院生)

- 7-3 文学の学習における〈問い〉の質的変容を促す教師カンファレンスの問い返し類型
—学習者の学びの文脈に着目して—

鈴木真樹(相模原市立九沢小学校)

- 7-4 小学校国語科における学びを深める発問の研究

小川智勢子(環太平洋大学)

- 7-5 教科書研究センターの研究成果物を教材とした大学・大学院のシラバス開発と授業実践
に関する研究—国語科教職課程関連科目を中心として—

松本 修(元玉川大学教職大学院)

西田太郎(玉川大学教職大学院) 桃原千英子(沖縄国際大学)

第8会場 司会:間瀬茂夫(広島大学) 吉川芳則(神戸女子大学)

場所:7号館2階206教室

- 8-1 高校生の作文における「主述の不照応」の出現の特徴

保倉毅之(東京学芸大学大学院・院生)

- 8-2 高等学校国語教科書における論理的文章を「書くこと」の教材化
—編集担当者調査と教材開発への示唆—

片田智香子(名古屋市立大学大学院・院生)

8-3 「書くこと」における語り手を育む創作文指導の基礎的検討(2)

—西郷竹彦「虚構の作文」を手がかりに—

井口あずさ(甲南女子大学)

8-4 「論理国語」の「書くこと」の授業改善の一試案

長谷川祥子(青山学院大学)

8-5 明治 20 年代における形式主義作文教育の再検討

鈴木貴史(帝京科学大学)

第9会場 司会:小川雅子(元山形大学) 町田守弘(元早稲田大学)

場所:7 号館 2 階 203 教室

9-1 聞くことにおける他者意識に関する研究

—小学校1年生の事例分析をもとに—

大村幸子(お茶の水女子大学附属小学校)

9-2 平成元年版学習指導要領下の高等学校における「話すこと・聞くこと」

—「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」・「国語表現」・「現代語」—

小川一美(東京学芸大学附属国際中等教育学校)

9-3 学習用語使用による国語学力形成論

—教科書教材の検討と大学生の実態による「話すこと・聞くこと」領域カリキュラム開発例—

柳谷直明(北海道教育大学札幌校非常勤講師)

9-4 中等教育における「話すこと・聞くこと」の指導

—「予想」「予測」「想定」に着目して—

神田恵美子(宇都宮大学)

9-5 小学校教科書にみる話し言葉教育

—平成 29 年改訂の小学校学習指導要領によってどのように変わったのか—

秋山英治(愛媛大学)

第10会場 司会:奥泉香(東京学芸大学) 中村敦雄(明治学院大学)

場所:7 号館 2 階 209 教室

10-1 小学校国語教科書における読書単元の実態

—平成 13 年～令和 5 年検定を対象として—

永井颯人(北海道教育大学大学院・院生)

10-2 子どもの実感が照らすヨシタケシンスケ絵本の教材性

—発想絵本の創作を通して生活と言葉を異化する小学4年生の姿から—

小川高広(上越教育大学附属小学校)

10-3 挿絵が読みの交流に与える影響

—「スイミー」最後の一枚の絵をめぐる—

岩崎直哉(富山国際大学)

10-4 児童はボランティアの絵本の読み聞かせをどのように捉えているか

—児童からボランティアへのメッセージの分析—

宮澤優弥(東洋大学)

10-5 Close Reading の基本概念と実践事例

—Douglas Fisher, Nancy Frey(2010) Close Reading and Writing From Sources を中心に—

小久保美子(元新潟大学)

◎ 昼食 12:20～13:00 (理事・シンポジストには事務局よりご用意します。)

◎ 理事会 12:20～14:00 (昼食が済み次第開始します) 会場:14号館5階501教室

◎ 総会 14:00～15:10 会場:14号館2階201教室

【第1日 11月22日(土)午後の部】

◎ シンポジウム 15:10～17:40

会場:14号館2階201教室

テーマ: アカデミック・ライティングと国語教育—書くこと・考えることの高大接続—

コーディネーター: 幸田国広(早稲田大学)

登壇者: 梶谷真司(東京大学)

佐渡島紗織(早稲田大学名誉教授)

田中洋美(椙山女学園高等学校)

渡邊雅子(名古屋大学)

◎ 懇親会 18:30～20:30 会場:リーガロイヤルホテル東京 ロイヤルホール

【第2日 11月23日(日)午前の部】

◎ **課題研究発表 9:30～12:00**

会場:14号館2階201教室

大テーマ:国語科教育研究の存立基盤

小テーマ:〈環境〉としてのテクノロジー

コーディネーター: 砂川誠司(愛知教育大学)

登壇者: 笠原 諭(西武学園文理中学・高等学校)

豊福晋平(国際大学 GLOCOM)

川添 愛(言語学者・作家)

◎ **昼食 12:00～12:30**(課題研究発表関係者には事務局よりご用意します。)

◎ **若手研究交流企画 12:30～13:40 会場: 10号館4階401教室**

【第2日 11月23日(日)午後の部】

◎ **自由研究発表 13:40～16:30 発表20分 質疑応答10分 接続時間5分**

第11会場 司会:山元隆春(広島大学) 間瀬茂夫(広島大学)

場所:10号館1階101教室

11-1 協働して書く際に生じる学習の再組織化について

—小学生の共同推敲プロセスに着目して—

堀口史哲(立教女学院小学校)

11-2 生成AIを活用した散文創作の実践研究

—創作課程と文章作品の比較から読み取れること—

藤田璃央(茨城県立日立北高等学校)

11-3 生成AIが存在する時代に「書くこと」の意義を考える授業実践

—生徒が書いた文章とチャットGPTが書いた文章との比較を通じて—

上村文人(東京都立北園高等学校)

11-4 高等専門学校におけるアカデミック・ライティング教育に関する一考察

—高大接続を視座として—

高槻侑吾(徳山工業高等専門学校)

11-5 LLMを用いた質問生成による書くことの学習支援

—物語リライト作文の推敲での質問選択と質的変容の関連—

成家雅史(相模女子大学)

横野光(明星大学)

宮城信(富山大学)

小野田雄介(東京学芸大学附属小金井小学校)

橋浦龍彦(東京学芸大学附属小金井小学校)

廣瀬修也(東京学芸大学附属小金井小学校)

第12会場 司会:高山実佐(國學院大學) 坂東智子(山口大学)

場所:10号館1階102教室

12-1 高校生は古文学習をどのように捉えているか

—質問紙調査の結果分析を中心に—

板垣光樹(広島大学大学院・院生)

12-2 現代語エッセイから古語エッセイへの翻訳活動

—言語空間の往還と解釈の創造—

田山地範幸(名古屋経済大学市邨中学校高等学校)

12-3 「木曾の最期」の挿絵を創造する

—生徒の読みを見取るために—

篠原嶺(奈良教育大学附属中学校)

12-4 高等学校『言語文化』における英訳古典を用いた教材開発と実践の試み

—『伊勢物語』芥川・東下りを中心として—

那須充英(奈良女子大学附属中等教育学校)

12-5 言語文化の持続性の感覚を直に獲得する古典教育へ

—生涯教育との連携を視野に入れて—

坂東智子(山口大学)

第13会場 司会:佐藤多佳子(上越教育大学) 香月正登(梅光学院大学)

場所:10号館1階103教室

13-1 文学テキストの批評における「道標」の可能性

—『星の花が降るころに』の授業実践をもとにして—

石井健登(大阪教育大学教職大学院・院生)

13-2 授業の中で営まれる「文学体験」に関する一考察

重廣 孝(広島大学大学院・院生 竹原市立吉名学園)

13-3 学習者の初読反応語に関する調査

岡本岳之(北海道留萌高等学校)

13-4 中学校文学教材に対する学習者の読みの反応とジェンダーの影響

明尾香澄(奈良教育大学)

13-5 国語学習実践における省察のあり様

—生起する省察の解釈・意味付けを通して—

香月正登(梅光学院大学)

白坂洋一(筑波大学附属小学校)

小泉芳男(広島県広島市立袋町小学校)

古沢由紀(大阪府大阪市立柏里小学校)

木原陽子(山口県長門市立仙崎小学校)

森一滋(福岡県教育庁筑豊教育事務所)

第14会場 司会：奥泉香(東京学芸大学) 羽田潤(兵庫教育大学)

場所：10号館1階104教室

14-1 文学教育におけるマルチモーダル・アプローチ

—サウンドノベル制作を通して—

伊藤雅人(兵庫教育大学大学院・院生)

14-2 短歌・俳句のプロソディーと読み方

—プロソディー中心の短歌・俳句の音読指導—

廣田鉄平(横浜市立万騎が原小学校)

14-3 〈読むべきもの〉のパラドックス

—1990-2000年代におけるサブカルチャーの位相から—

有馬遼稀(ドルトン東京学園中等部・高等部)

14-4 母語力×英語力の相乗効果を実現する

—国語と英語を結ぶ学習アプリの可能性—

大塚みさ(実践女子大学)

秋山英治(愛媛大学)

三好徹明(関西国際大学)

14-5 言葉と絵によるイメージ構築のための教科等横断的指導の検討

—源氏物語絵巻を活用した古典と美術の横断的指導—

山田丈美(中部学院大学)

第15会場 司会：長田友紀(筑波大学) 北川雅浩(熊本大学)

場所：10号館1階105教室

15-1 国語科教育における合意形成概念の再考

—ヘーゲルの弁証法の視座から—

木山蒼士(北海道教育大学大学院・院生)

佐藤恭平(北海道大学大学院・院生)

15-2 チームでの自律的な話し合いでどのような対話をしているか

—小学3年国語での実践を通して—

山崎翔(東京都板橋区立志村第三小学校 東京学芸大学教職大学院・院生)

15-3 中学生の議論プロセスと発達的特徴に関する実証研究

—小集団での協同探究型議論を対象として—

岩下嘉邦(熊本大学教育学部附属中学校)

15-4 〈問い〉づくりにおける話し合いの可能性

—学習者が授業の〈問い〉を選ぶ時に起こる二つの関連性に着目して—

渡辺優菊(品川区立八潮学園)

15-5 小学生の討論指導において議論スキルの積み上げは可能か?

—6年生を対象とした実践分析に基づく検討—

北川雅浩(熊本大学)

第16会場 司会:中村純子(東京学芸大学教職大学院) 住田勝(大阪教育大学)

場所:10号館1階106教室

16-1 「現代の国語」における探究を志向した情報収集のあり方について

—情報の適合性と図書館の活用に着目して—

尾座元真尋(千葉大学大学院・院生)

16-2 個別最適で協働的な学びにより主体性を育む中文学国語の授業開発と効果検証

—自我関与を促す言語活動「山月記マイベストフレーズ〜現代の言葉とともに〜」を通して—

阿佐美勝(伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 放送大学大学院・院生)

16-3 エージェンシーを育む国語科学習指導案の開発

—書写の授業を中心に—

矢田真菜(川崎市立東高津中学校)

中村純子(東京学芸大学教職大学院)

16-4 中核的概念で理解を促す国語単元学習のあり方

—IBプログラム・概念型カリキュラム理論を踏まえて—

中村純子(東京学芸大学教職大学院)

16-5 国語科教育学の原理的考察(九)

—ホミネス・リンギアス・コンプレクサス・トラクタンテス Homines linguas complexas

tractantes(複雑言語操作人) (「ホモ・リンガス (homō linguas):言—

望月善次(元岩手大学)

※動画による発表

第17会場 司会:富安慎吾(島根大学) 中村和弘(東京学芸大学)

場所:10号館2階201教室

17-1 中高接続期における不読率上昇に関わる質的側面の検討

—ナラトロジーにおける「時間」の「順序」を視点として—

新保透也(横浜国立大学大学院・院生)

17-2 文末の表現形式に対する中学生の意識調査

—「音読」「黙読」「聞くこと」からの考察—

吉田吏玖(中野区立第七中学校 東京学芸大学大学院・院生)

17-3 探究学習に生かす国語教育

—フィールドワークの事後学習としてレポートを作成する(高1)—

小泉尚子(中央大学杉並高等学校)

17-4 教員養成課程の大学生の品詞意識はどのようなものか

—国語教育と英語教育の連携のために—

三好徹明(関西国際大学)

秋山英治(愛媛大学)

南部匡彦(長野県立大学)

17-5 漢字学習の調整を支援する方法についての考察

—「漢字学習のためのパターンランゲージ」の再検討を中心に—

富安慎吾(島根大学)

第18会場 司会:足立幸子(新潟大学) 三浦登志一(山形大学)

場所:10号館2階202教室

18-1 小学校6年生を対象にしたOracy Assessment Toolkitの活用とユーモアの指導

—英国Oracy教育を踏まえた日本における音声言語教育の再構成を目指して—

友永達也(神戸大学附属小学校 神戸大学大学院・院生)

18-2 高等学校国語科における英語俳句を用いた授業実践②

—「国際理解教育」を踏まえた国際的視野の育成も見据えて—

石井明子(東京都立新宿高等学校)

18-3 デンマークのフォルケスコールにおける国語教育についての考察

—グラスサクス市の読書教育と授業実践に着目して—

山田深雪(玉川大学)

18-4 国語科における非認知能力と認知能力の関係

—経年調査に基づく学年間比較—

三浦登志一(山形大学)

折川司(金沢大学)

八木雄一郎(信州大学)

西一夫(信州大学)

第19会場 司会:坂口京子(静岡大学) 府川源一郎(元横浜国立大学)

場所:10号館2階203教室

19-1 国語科における翻訳文学教材の価値づけの変遷

片岡悠理(早稲田大学大学院・院生)

19-2 昭和戦中期における国分一太郎の言語観の展開

田中俊弥(藤井会東大阪看護学校非常勤講師)

19-3 時枝誠記著『増訂版 国語問題と国語教育』について

—言語理論から捉えた国語に関する教育と政策—

吉田雅昭(大谷大学)

19-4 高等学校「現代国語」の受容に関する一考察

—野宗睦夫の記録を中心に—

大滝一登(安田女子大学)

19-5 芦田恵之助編『尋常小学国語小読本』の位置とその創造性

—「自己を読む」系列の教材群の検討—

府川源一郎(元横浜国立大学)

第20会場 司会:守田庸一(三重大学) 舟橋秀晃(大和大学)

場所:10号館2階204教室

20-1 戦後高等学校国語科における『古事記』教材史研究

—教科書における位置づけに着目して—

梅寄晴菜(國學院大學大学院・院生)

20-2 西郷竹彦による「つづけよみ」「くらべよみ」

—1960年～70年代の言説を中心に—

松井萌々子(明治大学付属明治高等学校・中学校)

20-3 中学校・記録文教材『「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ』の読み方指導

—大西忠治読み方指導論の発展的継承のために—

丸山義昭（法政大学非常勤講師）

20-4 大村はまによる「個人差に応ずる実践と工夫」

—「第十五巻 大村試案」の検討(1)—

田中耕司（島根大学）

20-5 学生に学ばれた大村はま

—「中等教科教育法(国語)」Ⅰ・Ⅱの実践を通して—

舟橋秀晃（大和大学）

◎ ラウンドテーブル 13:40～16:30（終了時刻は最も長い場合です。）

R-1会場 場所：10号館2階205教室

タイトル：「言葉のティンカリング」の教育思想

—身体・対話・芸術の連関をめぐって—

コーディネーター：渡辺哲男（立教大学）

登壇者：山名淳（東京大学）

勢力尚雅（日本大学）

柴山英樹（日本大学）

R-2会場 場所：10号館3階301教室

タイトル：「自省録(宮澤トシ)」をめぐって(4)

—精読への道—

コーディネーター：望月善次（元岩手大学）

登壇者：小久保美子（元新潟大学）

大澤千恵子（東京学芸大学）

佐藤宗大（玉川大学）

大内善一（元茨城大学）

宮川健郎（一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団）

R-3会場 場所：10号館3階302教室

タイトル：国語科の授業と生成 AI

—さまざまな学習場面での活用—

コーディネーター：稲井達也（大正大学）

登壇者：有働玲子（聖徳大学）

畑綾乃（筑波大学附属高等学校）

小川一美（東京学芸大学附属国際中等教育学校）

小沢貴雄（鹿児島女子短期大学）

R-4会場 場所：10号館3階303教室

タイトル：多様な学校・教室における古典教育・伝統的な言語文化教育の可能性

コーディネーター：石田喜美（横浜国立大学）

登壇者：清田朗裕（愛媛大学）

草谷緑（フリーディレクター）

黒川麻実（愛知県立大学）

R-5会場 場所：10号館3階304教室

タイトル：倉澤栄吉『文法指導—言葉の基礎能力—』再考

コーディネーター：山室和也（国士舘大学）

登壇者：勘米良祐太（武蔵野大学）

松崎史周（国士舘大学）

山下直（専修大学）

R-6会場 場所：10号館3階305教室

タイトル：国語科と哲学対話の融合

—「主体的・対話的で深い学び」を哲学する—

コーディネーター：松島恒熙（信州大学）

登壇者：町田晃大（梅田小学校）

瀧澤真（蔵波小学校）

大澤由紀（千葉大学教育学部附属中学校）

牧野太輝（千葉大学教育学部附属中学校）

寺井正憲（千葉大学）

R-7会場 場所：10号館3階306教室

タイトル：「根拠・理由づけ・主張」を問い直す

コーディネーター：幸坂健太郎（北海道教育大学）

登壇者：野矢茂樹（立正大学）

篠崎祐介（東京学芸大学）

◎ 公開講座 11月8日（土）14:30～17:30（Zoom ミーティング）

テーマ：研究にもとづく授業づくり③—中学校・高等学校における読書指導を考える—

司会・進行：森田香緒里（文教大学）

話題提供者：中川甲斐（神奈川大学附属中・高等学校）

稲井達也（大正大学）

飯田一史（ライター）

間瀬茂夫（広島大学）

※公開講座は、すでに終了しました。

5. ご参加にあたっての留意点(重要)

- 参加申込等の詳細については[一次案内](#)をご覧ください。

[早稲田大会特設サイト](#)からも情報を得られます。

- 会場までは公共交通機関をご利用ください。

アクセス <https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>

キャンパスマップ

<https://waseda.app.box.com/s/gsx693d8fj8v8b5zz6ii20nc7js0p3pz>

- 当日、現金でお支払いできません。

領収書は[発表・参加申し込みシステム](#)の「領収書自動発行」から発行することができます。

[参加者の方へ]※重要

- 「[発表・参加申込システム](#)」の「参加証自動発行」から参加証を印刷の上、ご持参ください。

- 当日資料については、発表・参加申込システム内「大会資料サイト(早稲田大会版)」にて URL

をご案内しております。サイト内では発表の要旨に加えて、当日発表資料を公開しております。

※全ての発表に当日発表資料があるわけではありません。事前にサイトに接続の上、ダウンロードして参照してください。大会参加時には、PC もしくはタブレット端末を持参されることをお勧めします。

- 学内ネットワークをご利用いただくことができません。ただし、eduroam 参加機関のアカウントをお持ちであれば、早稲田大学のキャンパス内で提供している eduroam 基地局で無線 LAN 接続が利用できます。利用方法については、「eduroam JP」を参照してください。eduroam アカウントをお持ちでない方でPC等で資料をご覧になる方は、事前にダウンロードしていただくか、モバイル Wi-Fi などをご持参ください。

- PC等は事前に充電をしてからご参加ください。

- 本大会では、スタッフによる会場までの誘導はありません。本資料のアクセス、キャンパスマップ、会場案内図(フロアマップ)

<https://drive.google.com/file/d/1SOUYH2V8Oga9rTsH0nu8xlph3eJTdZzy/view?usp=sharing> 等をご覧ください、まずは 11 号館一階ピロティーにお越しください。

- 本大会では、前回の三重大大会と同様に従来のような受付がありません。

必ず事前に「[発表・参加申込システム](#)」の「参加証自動発行」から参加証を印刷して、ご持参ください。参加証には弁当や懇親会参加の申し込みに関する情報も記されています。事前にご準備いただく参加証によって、弁当の受け取りや懇親会会場への入場が可能となります。お忘れにならないようお願いします。

当日は 11 号館ピロティーに設置した入口受付で参加証を見せていただき、フォルダ等をお受け取りください。従来の受付と違い、その場で皆様に参加証等に記載していただく必要はありません。万が一参加者証をお忘れになった場合は、申し込み時にメール送信される「参加申込完了通知」を見せていただき、空白の参加証へのご記入をお願いします。その手続きに時間を要しますの

で、開始に間に合わないなども起こり得ます。参加証をご持参くださいますよう、重ねてお願いいたします。

〔発表者の方へ〕

- パソコンは発表者持ち込みにてお願いいたします。HDMI ケーブルを用意します。アップル社の MAC やマイクロソフト社の Surface など、コネクタ形状が異なるパソコンで接続する場合、必ず接続アダプターをご持参ください（例年、接続アダプターを持参していないことによるトラブルが起きています）。また、万に備えて、発表資料データを入れた USB メモリもご持参ください。なお、会場には常設パソコンも設置されています。
- 紙の当日資料は 100 部作成し、発表当日、発表会場（教室）までお持ちください。
- 大会事務局では印刷などの対応を一切いたしません。また 2 日目の資料を 1 日目にお預かりすることもできません。
- 当日使用するデジタル資料のアップは任意です。近年、PC やタブレット端末での資料閲覧を希望される方も増えておりますので早めに資料をアップしていただけると幸いです。
- デジタル資料は、下記の URL から PDF で投稿してください。その際、ファイル名の頭に、プログラムにある会場番号・発表順・お名前を記載してください（例：「1-1 ○○発表資料」）。会場数が多いため、発表日・会場番号をよく確認して投稿してください。また、他の方の資料を絶対に操作しないでください。また、資料のそのものについては、学習者等の個人情報や著作権に関する取り扱いにご注意ください。

資料提出先：<https://drive.google.com/drive/folders/1xrXYaRgeLJCw6TPM-GByewtNOS9IlxaD?usp=sharing>

なお、デジタル資料格納場所への URL は、「全国大学国語教育学会 発表・参加申込システム」内に設置します。

〔要旨集について〕

事前に紙媒体の『発表要旨集』をご注文いただいた方には、大会当日までにご登録くださった住所に直接送付される予定になっております。また、『発表要旨集』につきましては、上記に加えて大会申込者全員に PDF 版をダウンロードしていただけるようにする予定です。ダウンロードの方法については改めてメールにてお知らせいたします。

6. お問い合わせ先

- 参加・発表申込・原稿投稿・諸費用に関すること

全国大学国語教育学会大会ヘルプデスク

E-mail: jtsj-desk@conf.bunken.co.jp

FAX: 03-5227-8632

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

- 年会費に関すること

全国大学国語教育学会事務局

E-mail:jtsj-post@bunken.co.jp

TEL:03-6824-9377 FAX:03-5227-8631

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

■第149回全国大学国語教育学会早稲田大会に関すること

早稲田大会事務局

E-mail:koda_k@waseda.jp

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

早稲田大学教育・総合科学学術院 幸田国広 宛

※お問い合わせはEメールでお願いいたします。

■早稲田大会実行委員会

大会実行委員長 幸田 国広(早稲田大学教育・総合科学学術院)

事務局長 菊野 雅之(早稲田大学教育・総合科学学術院)

実行委員 榎本 隆之(早稲田大学高等学院)

実行委員 金巻 秀樹(早稲田大学高等学院)

実行委員 岸 圭介(早稲田大学系属早稲田実業学校初等部)

実行委員 後藤志緒莉(学習院大学・前早稲田大学助手)

実行委員 美谷島秀明(早稲田大学高等学院)